野路杖

上・中・下

伊地知文庫
文庫20
323

野路杖

上中下

伊地知氏書冊

古今和歌集序

[illegible]

宮内
三井

くてう花残りて月をちらしてやみ
つるをあるはしぬんことをおぼく
さぶくにちりぬるかをとやまとにたれかしら
ゆきにまがへてこうこうとこそ
らみをまちくしも事をもるしまの秋のうはぎ
ふもおりしをのへ旅祢のよそはなてもちきけをあ
らいすをしたちりぬるかをとはいへとも人はしのへ
うこれさるあるりなりとはいへとものえと
てをさるべきのもあるをあるをさるべきものさうなさぐはまり
りかをふをよれぬみとも残をちけてをはし
あしををりへくくのおしへをたはれくうのみ
ををしるくくのの人中はもれ年の数をうもふ
をうふくくあまくふくあ雨の東雪の彩にを
こうとしはちくさもりのもあれとあはさう数
はをふはをくくあをふくあまれふくまれの陰
月のあふもを云の葉をくくはしくまれ
たくはるる人おくふはををちけきをちわくを

うれをたをくくあをををこををうをを
くくふふくくくくをををををををををををを
うきあつをををををををををををををををを
くをけ数をふはをくくをををををををををを
のおくふうくをきくくあをををををををを
にもちりはれくくしをおりふ時は貞をみはの
をくをを月中れ西日山をををををををを
越のうくくのを西をくくを関のうくくく
うみれ山寺ふくくをををををををを

うくくくれあををれをををををををををを
わををををををををををををををををを
をきくくはれやまをををををををををを
集をををををくくくくくくくくくくくくくを
風賦此奥雅頌をくくはをくくくくくくくを
をれをくくと云ををををくくくくくくくを
たをくくくくくくくくくくくくくくくくを

先ちりぬるかとをしむこころをよめる

ちりてよもとしをしむこころをよめる

風をいたみ岩うつなみのおのれのみくだけてものを思ふころかな

いはしるしらなみをよめる

ちはやぶる神のいがきもこしをしみ

あらいそなみのかけをしぬらん

やいのうちのもみぢをよめる

くれなゐにのこるもみぢのあさ日かげ

くもりもはてぬ秋の色かな

ちりぬるもみぢをよめる

ちりぬるもみぢ

古今に

ちぶりの神のいがきくやしけれ

ちりぬべきさくらの花をおしみてよめる

春ごとにさくやこの花ちりぬべし

あかでこの世をいとふ人かな

賦とはいふ人ごとに一首よみて

ものしたまへるなり

ちはやぶる神のいがきもこしをしみ

あらいそなみのかけをしぬらん

賦とは

古今に

春ごとにさくやこの花ちりぬべし

たとへばちりぬるにおほせてよめる

たとへばちりぬるにおほせてよめる

春ごとにさくやこの花ちりぬべし

あかでこの世をいとふ人かな

賦とは

古今に

をいひあつまりてさすつにわみたりへくはよをんなうへ彼
残りくさまて一年たりとへるへ
さ今集ホ　ハの意をよむをたつきしあをを海苔
をなのあきさをよみはくをもの
すみなれあはのあの志ホやく　鹿風をいるみおもひぬるふ
たりをきにいるわさまてへとを　風此魚れこをみ
おりのホよをるへを云ハふくうれおをへうこ
あるをにたりへ多へうこををこしうたるへ
又をへ云を影我あるハさををるをとりくをを
とへみをれみかくいふへ云はものとりくを
りてをれホよをるこをにへをせいふへたりへ云をを
をホくへく影れんをあるへ八すへ風此魚れこを云と
しきにあくいさてのれたるひめをへに偽へ
雅をたこと云といふへ是をこをのをてのりをを
しきをいふとをおりふををめしもるこをるを
かくしすしにいひるうにおりこををホあハしく
ををよるるかくんを我をくをとくこをるを

るをかきれかをへ雅といふをきしき義へ又たく
しきへあめしよをへをたりへをこをくあれ
をホよをむをたくこを云をハいふへ云葉あををこし
をこをふこをありをもんれをを
春に春ちを葉れにをりをををくかををを
はをををむとあををむく
山をくあくををいろ我みつをこをれ散をくも風ぬ
つぬををを　表をれをいふをれ散をくも風ぬ
をををみくけををみをん　形くを山も
云葉をこをくひををるをハやををををををををを
頃をいをを井をこをいをを云葉我あハしをめをを
をををををををれををををををををを
ををれををいふをもをきをを寸神をつくをれんきみ
を代我いをれんあをはいをを井をこをををへ
春今にをれををををををへをををををををを
ををれをををのはをををせをを
表日野にをををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おくゝ是もさてこまかなることもあるまし又はたくゝとゝふあ
ぶつゝとゝふんもあるゝおんとすんとゝふてゝふたゝ
あふぎらふと云るゝさうぎらふとゝふるゝ
もそするとゝふてゝふたくもせうもそすると云ゝ
ゝもせうぎらると云へきをあり
ゝよはたゝふとゝはたゝぎはたゝにとゝふるゝ
ゝもゝくゝもゝ　貴人をゝ
花をゝぎ　月をゝぎゝとゝふゝ
ゝぎ　きれとゝ　ゝはたゝ
るゝ　きゝもゝとゝはきゝうゝ
もゝくゝとゝはるゝもゝくゝとゝふゝ
云ゝとゝふゝぎゝ　ゝ
ゝぎゝふゝはゝもゝ
ゝふゝはゝ　ゝゝ
ゝふゝはゝ　ゝゝ
ゝふゝはゝ　ゝ

もむへきくゝ又雨乃色れて雲も百へ
[illegible]に白[illegible]
[illegible]のおり[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寂蓮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゐまくやをしとり
下紅葉の四ぢの山はれ夕時雨ぬれくやをしとり
庵乃ゆふ
同
れぬとも
あらし山色つよりは秋風にれちて庵は高
さらん
知家
おもれ石ゆ
鶏ぐ
おもく入にはれ庭風井尾をれちみち
乃夕雲
俊成
高乃をこゆ
遠しあき庭乃あきちにむすあ主一家はて
こゆ
武子
月やおしおの
秋乃来は月やおしまはれてを乃東の方ちまを沖
はけり
永隆
いろ
浪井
俊成

同

あきも元野路乃玉川萩こへく色ゆ浪ゆ
月やとりけり
好方拾院

玉川乃岸は山あきうけみへく色ゆ浪ゆ八川
ちくゆり
寂蓮

青立はゆ

村雨は高もきく色ぬ桂は葉ゆ青立はゆる
秋乃夕雲
さぬき

ま
ちに
ちり
ゆ
ちは
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]浦や[illegible]さうの[illegible]浦[illegible]
有明の月　　ていの

嵐小雲新
小初瀬や嵐[illegible]ふ木[illegible]嵐小雲云る
吉野山[illegible]

[illegible]
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]
[illegible]何を[illegible]
吉野[illegible]
[illegible]袖[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

定家
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]

摂政殿
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宗法院
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

前入道左政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
はせ奇なりしきとのきこえなかも
まさらく夜来の[illegible]白雨乃[illegible]ちふあ
まのうら山
くれなゐにさるこ
[illegible]
[illegible]
白雲八重にさきたる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とよむこゝも五こいつまも山といふまれあれたこ
又ちたやあるれとしもれ数ともよもこ
わし嵐乃嵐おとはたちておれとも
く釣者代
と後こうもあらまこ云葉ともかくてのこ
ろし作るへし
あたれちる独絵のさ乃れいかさうの者おく袖
す涙もうけくも
乃左後れこはこうこ
年毎けく又こ田へきこと思ひきや命ちり乃り
俤成乃中山
さこやとよもこ
思ふ乃麻小あるしこ
ちんさこよれ中山
さこちとよもこ
いまもおもしこ思ふ乃れと者とよるれまにうく
うきこハさこよとよもこ
たく八さやこ

あるふとちたれ山辺にうちむまてくそこともたく
ち後ふしてたう
式乃乃ちたしてしこ乃
意ちたふ乃思ちたこ
す思代ちめしう
此乃乃ハちこにこり二やうこちむてくよくこ
式乃よみくせ三ともく乃ん乃つまこも美
之寸
百人一首も一乃ちよハく後者こいつちもとつく
後ちわしきこ百にいちもこ者ちやうにちこ
とこ
在原れちもこ乃ちもこ乃ちこ
ちちねこちくちくふちもこ者こ
乃ちしいふちんてとこ
乃ちおしくちこ乃ちこ
ちみこ
よみくはの心
ちこ
ちこ
ちこ

はくちやまよくのこられ葉をけぢ来く
つけのかちへきみちもをまつ
つかをえるみとおりへをいけをはぎ
らのをなれ先を家けれ

奇代よむ〻伝とをもしも面白くよまれぬるあり
こまをつよく葉をるをせんかれるを只云葉
はきををうしくしををををはきこ
はくし山吹はきはをこかをとをいふしをも面白く
よまれぬ歌こ
奇のよみうるをはおしれるも
ん入小成のこ先言をよこ習ふへきこと扱言れ
よみてこれに伝をいふをたる家ん代にををる言
を人のうへをひをんしてきこをる時おををけるも
とおもはれぬものこ伝をを後のこのに伝ををんいう
さ伝是をををを人んをををきをれこ言をを歌の
こをいひをををこ奇を成おををゆう
なんかをよきこ表撰法師のおをれ奇も人を
いへをもをいふ為きをくをををるいはつ
めぬ和歌こ言をををうおをと先へきこ古今をも
ひ言をを物の月れあのつきこをれきこあへこ
をけふもおをしこをれをものをこ言をを自

[illegible]

今[illegible]

き之

梅乃花それとも見えず久かたの天の原[illegible]

[illegible]

[illegible]

びきてこゑくといふこと
歌ゆゑ〜めれる文字
へつてもあり〜ん〜ぬ〜
あく〜ち〜
乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

乃七文字といふこゝ中れる文字
ちくれ七文字を下乃七文字
歌ゆゑ尾きれる歌
らぬをもりびる歌
くりけあひて志ゝやゝ
風雅によ〜歌
こゝらへたるをさ〜
乃ゆゑ〜めり〜こび〜
にちく達をけを
こゝろれはん〜
歌中に達をけ
へり是も秘んこゝ
歌ゆゑけき〜云

法の人乃たまねてふを又を云たまたまを始めハ
よろづねるを人ハ思いつるものことを何とおく面白く云
おもうるを奇とをんなをいふとも乃人
奇を行ふおもしろくしておりしるきやうにな
むさしたまねをもりて乃えをうは神をもくく後
きてれていうやうれ神もらを数へきこと後を道
奇といふおもを一やうにをきこと乃人下れ句へは
へ紀くきもしわり又法こをすしくよ紀もを武
乃こくくきもわり又武ハ紀をこ
こくくくきもくくこをうこ紀を奇へ
歌をもを小ハ和りを先家を記きく和為き
をりいうをを一子ををんをを内をを
人れ奇ハ和を歌んせうるこを先一ををんくく和
ちがくく武奇紀ハうんを武月乃あれはあん
きるをきこを歌庭小をきを奇
奇紀をを小をくく法ハくく小をハくくをこをぬこ

をもいハ武ハをきりをやさしくをもをれをを
をを乃くきをこををををを紀をを乃風神小
ををへきこをむりををををくをををををををを
きをこ乃をををきくをに法ハ武ををををををを
ハををををきこを武道乃大事をくにハり
奇を先をくにををへきこハりくををををををを
ハをハくくにををへくくを宇家をを十首乃四八九を
ををををを奇をををををを集小入ハを奇之をを
大をこをを奇をれを先をくををくんこををををき
をくをを
歌を風情をををををををを先ハをををを
みくくり紀を風情乃ハををををををを紀をを
をををををををををををををををををを
初紀をををくくを紀法をハををををををを
和云葉をこをををををを是後方乃ハ法を
為ハををををををををををををををををを
只今眼をを小乃ををををををを紀奇をををを

[illegible]

大概　秀歌大抵毎卯吟　風雅抄　続千載抄　続千載　集古今　新古今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるこにあり者きりの之 風そうにたゝ優くゆけ
たゞ見ゆるけいこ上数ゝ乃之 風雅をんなくゝ
雅 東にれ高々まこゝをさ所 なるゝ優
もの之ゝ之ゝ之ゝ乃ゝ乃ゝ 雅をもくゝ
そこゝをよゝ作り出れゝ 俗見をきゝゝ奇

姫しゝ山同しゝ

あるゝ有ゝ有ゝ有

いつれも集に入たる歌の内に
へきこと集に入くもあるべきを再こゝに又ちみ人
たゝすとあるの歌ゝをは出ぬくとゝ入へきす
是ハ歌ハ新く後撰ハ習之さうれとも
年のうちに春きたりぬ
月やあらぬ春や昔の春ならぬ
我身ひとつ本の内に
かくとあらはゝ
はたらくの歌ゝを
あしひきの山ほとゝきす
みちのくの山
又ちの月のつゝ
かくとき寸ゝやさ月の
五月こゝの月ちゆく人
ちはやふる神代の
是ハ云ゝ歌度御する
ゝきこと内ゝ古歌ゝとゝ
ふもあ寸

古歌ハ云葉ゝ
ハもあることは又一種なるへし
為元川ハ
いかゝせんとゝ
これハ
為元川書の目数ゝ
ゝれまゝ
ゝ川ハ

尺寸もあ寸みもせぬ人ゝ
あやなくゝふやなるゝ
先数ゝ尺ゝもあるに尺もせぬ新の歌の
あやなくゝ寸ハ書の内
のこゝゝ多くあ
又ハ歌ハ
梅の花ハ
なけとも
雪の内ハ
為元ハ
ハ内ハ
ハ内ハ
ハ内

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又年ごろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうに　をまて

てりもせさて日雲にもたなびかぬ乃
おほ海月者に志くこと乃ふ乃ち紀とふ
大をゝは物乃匂ひ小寸こ清く
くもりもなてぬ春ハ乃月とあ
に小のにも海りくる面っうさう清き
清乃く波里に歌もあるくにとふを
釣りあく袖うもちゝ海のけもゝ
さみく波りの寄ちゝ少くれとよ乃り
岩とり川せゝは堀本あるいまく
いふせんとの多ゝみ乃ゝ乃とふを
岩ゝ乃川いふせんともゝ志ゝ寸
思へゝ人をうゝ待みゝ清るゝ乃とあ
三梅ゝ山いふ待みゝ海とあ
見る人をあ志ゝ海とをとふを
たつゝぬゝ志ゝ乃ひ志ゝ清ゝ紀伊とよ乃り
ゝ志ゝれ和ゝの清ゝ紀伊とよ乃り

又年ゝ乃毎ゝ一海ゝ　をこれ数ゝ乃あり　ゝ乃一乃
やうに
釣ひけに本へゝ山ゝ　てる月ゝ
あゝを新きゝみを山ゝ　ふしくとふを
新日新自へゝ山ゝ　さゝ乃れ
つゝ志一ゝ乃ゝ志ゝ　ゝ乃ゝ乃数を渡り
志ゝ家に風ゝ吹ゝ　清ゝ紀ゝ乃　雲を
清ゝぬ紀ゝ乃ゝ　志ゝ数ゝ乃数とふを
王本ゝ乃ゝ乃ゝ　風ゝ吹ゝ　地新乃　ゝ乃ゝ数ゝ家に
と渡り
又年ゝ乃二ゝ乃ゝ　いくゝ乃ゝ　ゝ乃ゝ数ゝ乃ゝ　ゝ乃ゝ数ゝ乃ゝ　ゝ乃ゝ数

ちかくさてこもしかよいくさをかれと僧か
大くこそ月をもめてこまてこの
清もまる人の老とかもの
志つかとくもむしろくにとしあれハ
ちかけれぬあるうせかや

古来を
作実　老とかもの人とは志うぬ志うしく
ちむしろくにに月をうしかる
うくかとき乃るまと舟をまた乃志まさと志人
初学乃こもくしろくちかきもかこ乃志しく古人
かうこれ名句ときこ舟しかをそろく
しくこれをかとれを始しと思ひくそ懐へうす
むしろ来清師　能因法師ちとすてみ梅ち
るとおかくちかしかも作れしこれくハあくろく乃
人志まさちん

能因

さくもちかの乃西ハせ梁ともる
花乃志くみうくへうりあ

来変

さくもかの山をハうあり
ををのれにとこしくもく
くれハとて今ハよ乃人これくれ後ハしくをく新
ちくかをひくるちへきハと
能因法師しこれ言合さ　李之とふ人乃言
さ

こぎこれまに一極ちをゆけをあハし海
うくをまてホちるあ清るる
比言ちくかかくをくを海てにこて
みしくるし懐多名名言ハちをハ
ちへふとく　始かを言を一二句と新るをつ
こちれもくるすめいを言名句乃上ち人乃耳ホ
あるをはこるすくをくちへ
乃言葉ホもくかへくをくをこん
をくをくを懐をくをくをくすをくを古かを言葉を
をくをくを懐をくをくをくすをくをくをくをくを
をかへくすをくいくるをくへをを舟をくをくをくを

世の多数云ひ業をきゝくとやきゝくうにあ世にも
ぬさうくもきこゆ数やうに漢ろひ智ふへ弓
乃ぬちそうり姫つくしくまゆ言やまくたつくしを
智ひ能きれくもあり才又能きくしく智ひろき
も氏ぬこ二十一又まれ清くやうたふきれはたや
智ふるゆ以ひ清けく人きれまんをくきあんさ
しを能くくるゆきゆめ

奇小四病八ゆうて能きゆ世をみおさ
わくゆもはきれこいふへ乃ゆさこきゆれて
今ゆよゆうひくしくれもゆもうきゆ八きくくも
きれをんふうれ八一ゆもよ海ゆをゆあゆ才
ゆ世ふりくそ乃病ゆきゆ宮ふはきゆ
作才

そゆうちて小八ゆちひゆて八世行くれを日世も
吟し世くゆきゆこれを世はくんゆ漢へきこ
又こうゆ世ゆきゆ八上乃白小八清くゆず
世一ん宮ゆくゆふ上八上ゆくこゆうゆ下ゆを下世

こゆうゆ世へきゆれくゆきゆうゆ海をいふこ見を三千
一世にゆをひゆるゆてゆくこ奇ゆこゆはこゆと
ゆりをゆ世ゆ世へゆんゆ乃ゆゆ業ゆけゆひゆゆゆ業
ゆ才ゆもゆきくくゆいひゆゆくゆ三十一ゆゆ世
ゆを我ゆゆくきこゆこゆ云ゆゆゆ小にゆゆせいゆりくゆ
きくゆゆゆ宮ゆゆ世ゆ根ゆゆゆもへきゆゆ小ゆん
作歌

うくゆゆくゆ漢ゆ風猶乃ゆゆゆちみゆゆいひて
ゆゆくくゆゆ世ゆゆゆゆくくゆゆれゆゆゆ海ゆし
ゆくくゆ業ゆゆきゆもゆゆこゆゆゆくゆ一ゆゆ
十ゆゆゆゆ乃ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ穴笑

扇ゆゆゆゆゆゆ世ゆ小ゆゆ紙ゆ業乃ゆゆふし
に海ゆの風ゆゆゆゆゆゆゆれゆいゆ
ゆゆ小奇ゆゆゆゆゆ詩ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おもうこゝろをんなゆゑにすてゝきこゝろけあくおうこゝ
ゝ数ゝ年をへゝ一ぢやをとこをおもくへゝなりうく後
うゝ数をもあきこゝ一ぢやをとこにすてゝ成仏し
をうくんあをせくをを数をとうくを先仏をえ
へしををををとゝいふをうをきくくうちきて
きこゝけれ也をくををきこゝをえりハめぢくしく
ををへゝるおりいれ人おほく言花をを
くをををおりふんをちんあゝけ数おほろけ
乃人乃後ゝこゝををうゐこ
云葉いやしくあをりにおゝう形数をを
らじ　ゝ　ゝ　なゝゝ
よもををきこゝとふかゝをゝ云葉者有
ゆゝしに為くよみゝう数ハいをを為云をゝ
大ゝこゝ言乃ゝをゝとゝいをを仏先をしくめぢう
しきゆゝをとををあ云をゝ後仏をきこゝ
んあををこゝへゝも云葉ゝをををををををを言ぢう
ゆをたしゝもきこゝこゝすゝ又云をゝをうをたを一ぢ

さこそふる時雨ちきりをよしもいまはたのめてこそぬし
あれとも世こちかこまちかきをそ又まちしけ
くおもしろきを一乃すをしこうかくを
ぶしたらん所をまに所をおはつけまを思
ひくへうす金葉集といふ所有をれて入る所
ともまうをを詠をはくてくふん御よ
後拾遺の序にを云をぬいわかくてくふん御よ
りも時雨くをあめれをうすしもあき
ぬいをめくことくをはをたくをみわけ
をしを詠しもをうにおはをく詠あも
あつれあもきをあををにつきてくをを
もををうを詠をといへをを成へし
あしくもきこあをををををををををを
定家卿乃いをくをををををををををを
をを時雨きを用あへしをををををを
んを求めくをもををををををををを
乃人をををを歌あをををををををを

樂譜乃人之

あもきをあををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを

集三十六歌中の上をあふくを人中をつゆき
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを

古今集　後撰集　拾遺

をををををををををををををををを
小所をを　をを乃をを　をを乃をを
をををををををををををををををを
和歌を師をを　をを時雨をを
をを深くを云を後先生を師をを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを
をををををををををををををををを

あれもやはしくもやたえさて数をはさまて秀とはいふやうふくまるひこそくあるまに志もあらさるとかんいあ〳〵へ乃秀と師とくく智ふへくさはもへ紀を
老乃中を行く毎とへんあるの志〳〵ける志紀以数
あるの志〳〵ける
何よの東路りさけ志ま一を書目ゆ毋ゆ〳〵ゆ山に
おし月うを

業之　こはのを中志紀ゆ生志人
今は人乃ゆもをみれはゆるれ志り業之
乃秀に
おもひのいもうゆけ八ゆ乃業れ
川風さむみ志りをゆ
さ〳〵ち数志乃下風をさむ〳〵
志られぬ志ふりゆ数
こはのを寺に
をやとの花見そ〳〵に志事数人を

散ゆん梅を志〳〵う〳〵へ紀
又平乃業盛ゆ〳〵に志
ふりふれを志ゆ紀に志る年月を
おふりむふと行いく〳〵ら
八氏寺を秀ゆ中乃神ゆ志へ〳〵を以おき
ゆるとゆん
業乃志ゆ〳〵ゆ数ゆ
いゆを志ゆみを行ふ志〳〵へん
志ま一を仲数乃業乃中数ゆ君にゆ〳〵
ゆゆを行ふ数乃業へを以ゆ〳〵
ゆゆを〳〵やうに秀ゆみ智
志せ〳〵を川に志〳〵みを紀
神志〳〵ゆを志ゆ〳〵ゆ数ゆる
見を志ゆ〳〵ゆ梅ゆ我ゆ乃ゆ志ゆ
秀を志ゆ〳〵にゆを〳〵へ紀に志ゆ〳〵おし〳〵へ乃数を
俊成乃秀合ゆ判乃ゆを秀に秀を〳〵ゆ寺し
ゆ智ゆん志ゆ〳〵ゆ〳〵を紀ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なびくそちふも笑ちかほ
新乃さけふ　秋風そふく
さわらぬ　ぬ出去ぬ　おもかけ　すこうにわさこし
きさこ　ぬ乃新やこ乃神へ
明月ぬ　さん　ぬ　ぬ乃　玉川　萩　こえく
色ちる　波小　月やこ　こ乃
おもひ　さ　葉　さ　ふ　白　乃
たよく　来て　も　て　ぬ　れ
さ　ぬ　ぬ　面白　所　こ　に　上　ぬ　ぬ
こ　乃ち
うこ乃新人　ぬ　ぬ　せ乃　山　お　話し
こけ　こ　れ　こ　は　い　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ふ　ふ　こ　ぬ　ふ　ん　小　海　ぬ　ふ　こ　ぬ　祝
小　お　ふ　ち　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　海　ぬ　ぬ　ぬ
わ　き　ぬ　け　れ　奇
か　つ　き　や　こ　る　百　乃　山　れ　さ　く　ぬ　ぬ　れ
ぬ　ぬ　乃　よ　ぬ　に　乃　ん　く　や　ぬ　み　ん

秋風に　たゞ　雲乃　絶百　こ
ぬれ　ぬ　新月　新乃　さ　や　け　ぬ
こ　ぬ　乃　お　の　へ　乃　れ　を　ぬ　く　風乃
高　小　の　乃　や　ハ　き　て　ま　ま　へ　ぬ
清　梅　新　長
き　み　来　ぬ　ハ　ま　ま　や　梅　ん　ま　ま　乃
こ　や　ぬ　も　ま　に　乃　や　く　ま　れ　来　ぬ
ち　に　は　人　ま　く　ま　乃　く　ぬ　ぬ　ぬ
ま　ま　ま　

あまのくにはなれ荒まれしうる
ちとうり又をも来くみん松浦や
あり[illegible]よのうらやはしかあるれ
ありひきやちとりのたちうく波ふ
百来をもおれしまろ祈ちんちは

奉俊乃奇

あうう歩をいせのたみ清の月の郡
いををうらにみ清の月の郡
繁うおれしさせもの歩をを命あく
あられと年乃秋をいぬうり
ちまつれ変うをいうへあもおうう海ぬ
ヒのよあもちひ祈ふ少ん北風祈ち

西行法師

あちつくられのさう事にあまうり
山めちまちとうう歩ちう雲
花ちをもんれいうて祈りうん
ちてちてきうありふ方ち

ちう神山屋うてあしうとありふ方ば
ちれもりはちはとくんや青ちん
ん方ば方あをあうれを志ちを
志き事川はれ秋乃ちを
順徳院御哥

うけしあれちあうれぬ波をあれうり
みきハ乃花ち志乃うち
ニりうちくヒ青をあけぬまうけ
二もうく山乃岩ちはよこ雲
人をあ岩をはうこうはを
みりれ小海乃秋ちれ
百花や海乃はり歩ちれ
ちはあはりあれ歩もりうう

中務卿親王乃奇

音羽山花ちはれ逢坂
冥乃志ちはれふ志う歩
雲をちふ少風ちうあちの志乃

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

夕されば野への秋風身にしみて
うづらなく也深草の里

見わたせば山もとかすみ水無月
の夏の夜は月ぞ明ける

月さやかに雲の上にあれぬれば
ひかりをかくす星もなしけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くるるよりも清士乃うくひす
むろのやしまも紅葉
金ゆるもふるさとの
されるあるいにみつ
されもはあるれみし
うれてものをあるも
ものへとやもぬむ
おるうくみつの
おさまれる民乃つ
二夜立くもいのち
百貨乃さはをいう
きこぬふむ山乃
来ぬ人をまれを乃海
なくやしをれ
さるるとつる新古今に
うこともれを元
ちりとをへ

第大納言爲家

時雨ふる新山乃さくら
花さそはぬ
深あへす志くるもの
をみちをぬさと秋
をれりるおりひ
んをゆきくる小み
みちのくれはるき乃海
流りくゆへ
立しく山陰乃りみ
時雨ぬ松乃色
金ちて乃色
年月ちるきこれ
是をみつつ
二奇乃中
お大納
ちるる乃

撰集
云形
伝爲氏

つきみ社上ホの方の山の葉
ちる神山いくせ社と言ふ時ぬるん
おのへいろ紅と言ふ
更級表の方おくてのいろを色付く
こうりいかさもき秋の山風
紅葉を乃秋社ちりぬるこみこう
ちれとのこさるねこの風
さゆ数雲の風社風ふる時を夕べく
あく数雲百ゆ清ける白雲
ちれ〳〵も又ちれとも残れ
まてこそし言ふもえ
秋四代乃人こそつゝ集き撰いれたる
言ふもよれこそしもも必へ紅風神ゆ後ゆ
おかりけれ言ふもとつゝ思ひ
へきこそ定むのちれとつゝ
ちれこおくまつくきこちいとに
なりこゆ十神乃国ちよせいは紅神と

ちを乃人社尺ちふへきこうこ
言者のちれみてふ紅人を
ちりちん坂を言へ紅
そこんをいひしきりにちの月乃
ちこ時乃月をちちおつ紅うる
おりひゆいをうりおけを乃紅れ
川風さもみちちりくこ
音相川せき入く流ちを時間
人乃んれみえをちを紅おれて
ちこれ京八十清つけくちを紅おれて
人ちをつけよあまの清り神
ちまつをよせいちこ言乃ちを紅
言をてちんりく風神をたちをへきこちり
ちん
嵯峨院乃ちをおせを紅をに乃にいちく言乃ちき
やうはたくまつくを聴ちる紅を紅神
をちくこんこ紅ゆつくんちも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]